

## TRANSITION TO HEALTH (088)

### “ 新型コロナウイルス感染 ⑭ ”

～ 新型コロナmRNA ワクチンの危険性について ～

#### はじめに

年が明けても、新型コロナ感染の収束(終息)の兆しは見えず、いよいよ日本でも、来月(2月)から医療従事者へのワクチン接種が開始される予定である。前号では、元・製薬会社ファイザーの副社長兼最高科学責任者のマイケル・イードン博士が、欧州評議会の保健衛生委員会の委員長であるヴォルフガング・ヴォダーグ博士と連名で、EU政府の欧州医薬品庁(EMA)に対して『全ての新型コロナワクチンの研究(第Ⅲ相臨床試験)の中止』を要求して、12月1日に異議・申し立てを行なったが、EU政府はファイザーのワクチンを承認し、接種が開始されたことをお伝えした。今号ではマイケル・イードン博士の緊急請願(申立て)の内容を中心にお話しましょう。

#### マイケル・イードン博士(Dr. Michael Yeadon)について

マイケル・イードン博士は薬理学の第一人者で、アレルギーおよび呼吸器疾患の薬の研究で30年以上にわたり世界を牽引してきた。論文発表は多数、特許を6個取得しているという。

博士はファイザー社で1995年1月からアレルギー部門の最高科学責任者を務め、2006年6月からは副社長をも務め、2011年6月にジアルコ(Ziarco Pharma)社を創業し、翌7月にはYeadon Consulting社を設立、そして、2011年10月にファイザー社を去っている。(創設したジアルコ社は、後にノバルティス社に買収されている。)

イードン博士は、利益最優先のワクチン業界の対応に対し、「危険極まりない」「治験者は製薬会社に騙されている」「不完全なワクチンをこれから投与することは犯罪行為に等しい」等々昨年の10月から告発し続け、12月1日に、ヨーロッパ評議会の保健衛生委員会委員長と共に、欧州医薬品庁(EMA)に緊急請願・異議申し立てを行ったのであった。

#### PCR検査偽陽性による似非パンデミック(M. Yeadon博士)

本健康通信No.86「PCR検査の不都合な真実」で、「米国のCDCが『新型コロナ感染死亡者の6%のみが新型コロナウイルスによる死亡で、残りの94%の死因は、他に抱えていた深刻な健康上の問題(基礎疾患)であった。』と公表した」とお伝えした。イードン博士は、「PCR検査陽性」＝「COVID-19感染(の主要な証拠・症状)」とする大きな誤りに基づいてデザインされた開発中の全てのワクチン候補の臨床試験の中止と、臨床試験デザインの修正を求めたのである。「PCR検査陽性＝新型コロナ感染」とすることにより、偽陽性者を感染者に仕立て上げて、新型コロナ感染者(数)を増産し、また、基礎疾患・持病が真の直接死因であるにもかかわらず、新型コロナ感染死と偽って集計し、報告されているという状況に、イードン博士

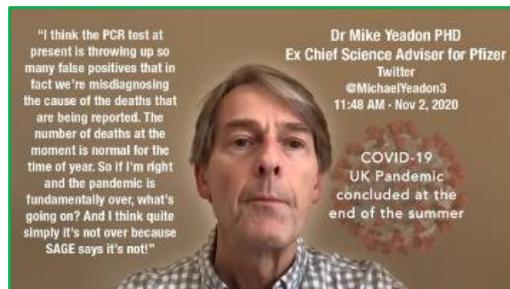


43 ページにわたる申立書 (PDF)

をはじめ、世界中の3万人以上の医師・医療専門家が警告を発しているのだが・・・。

## コロナワクチン共通の深刻な問題：ADE（抗体依存性感染増強）

ウイルスの感染力を中和することができない**非中和抗体**が産生された場合、その後のウイルス感染により、抗体依存性感染増強（ADE）が起こり、過炎症反応、**サイトカインストーム**、免疫調節不全を引き起こし、肺や他の臓器に重大な損傷をもたらす可能性があるという。このADE現象の問題は、デング熱ウイルス、エボラウイルス、HIV、RSV、およびコロナウイルス・ファミリーに共通の問題であるという。実際に、このADEの問題で、今までの**コロナワクチンの開発は失敗**に終わっていた。ADEがコロナワクチン、特に**SARS関連ウイルスの持続的な深刻な問題**であることが多くの研究で証明されていた。コロナワクチンの多くが初期の**In vitro**の試験や**動物実験**でことごとく**失敗**してきた。たとえば、SARS-CoV(サーズ・コロナウイルス)の**スパイクタンパク質**でワクチン接種された**アカゲザル**は、重度の**急性肺損傷**を起こした。同様に、4種類の異なるSARS-CoVワクチンのいずれかを接種された**マウス**では、本物のSARS-CoVで攻撃された後、**好酸球浸潤**を伴う**肺の病理組織学的変化**を示したと報告されている（専門的で難解ですが）。今回の新型コロナワクチンの開発では、安全性は軽視され、「**動物実験を免除!**」して、スピード最優先で承認されているのです!!



## PEG（ポリエチレングリコール）による副反応

Pfizer / BioNTechの**mRNAワクチン**には、ウイルスのスパイク蛋白のmRNAの周囲をコーティングするナノ粒子脂質に**ポリエチレングリコール（PEG）**が含まれている。接種されると70%の人がPEGに対する抗体（**抗PEG抗体**）を作り、PEG含有ワクチンに対して**アレルギー性の潜在的に致命的な反応**を起こす可能性があるという。また、抗PEG抗体がワクチンの有効性を低下させる可能性もあるという。1回目の接種の**アレルギー反応**が軽く済んでも、2回目の接種で**アナフィラキシー（ショック）**を起こし、その後、本物の新型コロナウイルスに感染（3度目に相当）した場合、作られた抗体が**非中和抗体**であった場合には、「ADE」や「**サイトカインストーム**」「**免疫の暴走**」などを起こしてしまうかもしれないと、懸念される。

## ワクチンのスパイク蛋白：シンシチン-1 (Syncytin-1)で生涯不妊症になる!?

ファイザー/ビオンテックの**mRNAワクチン**には、**Syncytin-1（シンシチン-1）**と呼ばれる新型コロナウイルスの**スパイクタンパク**が含まれている。実は、シンシチン-1は**ヒト内因(在)性レトロウイルス（HERV）**に由来する蛋白で、哺乳動物および**ヒトの胎盤**の発生に関与し、**妊娠**を成立させるためには必須の前提条件であるという。もし、これが事実ならば、接種によって誘導された**抗シンシチン-1抗体**が**胎盤の形成**を阻害し、女性は『生涯に亘って**不妊症**』になってしまう危険性があるという。今回のワクチン開発では、哺乳動物での動物実験は免除されており、動物での妊孕性・催奇形性に関するデータは全く採られていないし、また、ヒトによる臨床試験期間も観察期間も全く短すぎ、将来的な不妊症誘発や催奇形性に関するデータも採りようがない。したがって、「出産の可能性のある女性（WOCBP）は特に、慎重に判断してほしい」と思われる。

## 生物発光物質『mNeonGreen』挿入の謎

また、今回のmRNAワクチンには、**海洋無脊椎動物**に由来する成分である『**mNeonGreen**』が挿入されているという。この成分は「**生物発光**」の性質を持っているため、医用画像の目的としては魅力的であるが、何故、ワクチンに「**生物発光**」の性質を備えさせる必要があるのかは不明である。また、『mNeonGreen』の抗原性も不明であるという。もしかすると、ファイザー/ビオンテックの「**ワクチンが接種済であることを認証するため**」の仕掛けなのであろうか??

## おわりに

来月（2月）から、本格的にワクチン接種が始まる。国立病院機構の医療従事者から接種を開始するということであるが、静岡県では尾身分科会会長の関係で、静岡市清水区の「JCHO 桜ヶ丘病院」から始まると聞く。Michael (Mike) Yeadon 博士の緊急請願(申立て)の内容を考慮すると、今後 出産の可能性のある女性医療従事者、基礎疾患（持病）を抱える職員、免疫力の低下が疑われる高齢職員は、今回のワクチン接種は控えるべきではないかと思っている（\*個人の見解です）。

本健康通信No.85でお話したように、**遅発性・後発性**の「不妊症」「催奇形性」「難病」「自己免疫疾患」「癌」などの**副反応**も起こり得ることを忘れないで欲しい・思い返して欲しいものです。今回紹介した**イードン博士**の『**緊急請願(申立て)**』については、テレビ・新聞などのマスメディアは一切報じていないようである。テレビ出演している感染症専門家やコメンテーターは、これを「**陰謀論**」とでも言うのであろうか? 「マインドコントロールされた陰謀論」を「正論」「事実論」と勘違いする過ちだけは犯さないようにしたいものである。